

天原・岬・勝浦若潮3校統合問題

魅力ある高校づくりへ 出来る限りの支援、応援を

大原、岬、勝浦若潮の3校
統合問題について、毎議会取り上げています。27年度に統合し、総合学科高校としてスタートすることで、これまで学びの系列など地域と連携した高校の在り方が議論され、スタートまでに施設整備や学校の名称や岬、勝浦への移動手段など、統合準備室で議論が進められていますが、魅力ある高校づくりのために、①県に対する要望事項について、9月議会で提案した、ホールの建設や多様な学びを可能にする小教室の設置や専門の職員配置、エアコンなどはどうなっているのか。②これまで議論を進めてきた「高校問題を考える会」の解散時に

話された新たな会の設置についての見通しはどうか③統合準備室との連携はどうか、準備室からの連絡を待つといふ姿勢ではなく市で応援できるものがないか、定期的な会議をもってはどうか。

市長に質問しました。

(市長答弁) 県の9月補正と合わせて七四七〇万円が予算措置され、実習棟の新築、校舎改修、福祉実習室や大講義室も計画されています。県への要望については、11月1日に県を訪ね確認を行った。今後の統合校にとって大切な施設整備、実習棟のエアコン設置、スクールバス、教員の配置、増員について強くお願ひをした。12月中に再度要望

していく」とも考えている。

現在、中学卒業生の約半数が長生地区などの高校に進学しています。高校統合の理由にされたのは、生徒が少ないと切磋琢磨できない、切磋琢磨できる「適正規模」が必要というものです。魅力ある高校を作り、生徒が集まつて、る高校にしていくことについては統合を計画した県教委の責任は大ですが、市としては、生徒や保護者への説明会など、地域と連携した高校の方を議論する会は絶対必要です。魅力ある高校づくりを取り組みを継続出来るよう願望しました。

日々の暮らしの安心や、楽しみは、一人では限界があります。ちょっとした困りごとを助け合い、支えあう、どこ所づきあいが最近は少なくなってきています。地域の中には気軽に集まれる場所として、れどもサロン事業は全国でながっています。特別なことをするのでなく、井戸端会議やお茶会などを通じて絆を深めし地域の助け合い、支えあいを地域住民が自主的に行う活動です。一人暮らしのお年寄りが増える中で取り組みの必要性も高まっています。22年9月議会で取り上げたときには「気軽な高齢者の交流の場がこれからは必要になる」で、今後実施に向けて検討、

ます」というものでした。自
主的活動とは言っても、ふれ
あいサロン活動の設置や運営
の注意などの啓発パンフレッ
トの作成や会場費などの運営
費補助など支援の仕組みを作
れないか質問しました。

市政への要望、意見収集に カメラ付き携帯電話や パソコンを活用しては

は一インター名シトを使ふる
方が限られることがある、導
入するにあたり経費やシステム構築の検討が大切だ」と前回より後退しています。そんなに難しく考えず、市に連絡するには手紙や電話、ファックス、Eメール、インターネットなどなんでも受けられるわけですから、使いやすい手段を活用するよう宣伝すればいい事です。市民が市政に参加しやすい環境を整えることにもっと前向きに取り組んでもらいたい。

旧夷隅町須賀谷地区の工事
団地跡地は24年2月に千葉県企業庁より譲り受けたもので、45ヘクタールという広大な広さが手つかずの状態になっています。24年6月議会で質問した時には、「今後の活用方法についての住民アンケートでは、現在の自然環境を景観を生かした里山、公園などを整備する意見が過半数を占めたことから、今後は、自然環境や景観を生かした整備に関する意見・アイデアをよく聴取するため、市民や市

ふれあいサロン活動

啓発や支援制度を

12月議会の質問は市民との協働をテーマに、これまで取り上げてきた、市民税の5%を活用した市民予算枠事業（一面）のほか、市政モニター制度、工業団地跡地の活用、ふれあいサロンへの助成制度、についてその後の検討状況がどうなっているか質問し点検しました。

懇レポート実証実験としてマートホンやパソコンから市内の地域課題を、写真付きレポートで投稿する取り組みや、市長とまち歩きなどが実施されています。今回の答弁

45 ヘクタールの市有地の活用法
アイデアを募集し
早急な整備計画の策定を

環境整備ができないかと提案しましたが、総務課長の答弁は、「起伏があり広いので難しい」しかし「活用については圏央道も開通し、東京からいすみ市まで時間的に近くな